行 事 報 告 書(例会)

報告者:藤裏

行 事 名	神戸須磨の史跡を訪れる
実施日時	2025 年 10 月 23 日(木曜日) 10 時～15時 天候:快晴
行先・場所	神戸須磨
主旨・行程	JR須磨駅→村上帝社→関守稲荷神社(須磨の関跡)→現光寺→綱敷天満宮→諏訪神社→平重衡→頼政薬師寺→須磨公園(昼食)→須磨神社→松風村雨堂→元官長田神社→JR須磨駅
参加人数	MNC 17名、 他 0 名 担当:花島・藤裏

【状況・経過】

雲１つ無い秋晴れの下、須磨の史跡を訪れました。

JR須磨駅から整備された須磨海岸を一望してから出発しました。

村上帝社・関守稲荷神社を経て光源氏の住居跡と伝えられ、源氏寺ともいわれている現光寺に着きました。

現光寺

お寺の下に源氏寺の大きな石碑があり、少し坂を上がると現光寺です。

最初に住職さんからお寺の概要について説明して頂きました。

H7 年の阪神淡路大震災で壊滅しH14年に再建されました。

浄土真宗のお寺で本尊は阿弥陀如来です。像が立位なのはすぐに手を差し伸べられるようにとのことです。

本堂の襖は国宝である源氏物語絵巻(模写)が描かれています。

境内には芭蕉や正岡子規の歌碑があります(後記)

綱敷天満宮

須磨の天神さんとして親しまれています。

菅原道真が無実の罪で大宰府へ左遷される途中須磨で休息した事から創建されました。

学問の神様として学業成就、合格祈願、七五三祝いなどで賑わいます。

綱敷の円座・茅の輪・願い事がかなうナスの腰掛・3猿等縁起物が多々ありました。茅の輪くぐりをしました(厄払い)

平重衡

平清盛の五男

山陽須磨寺駅のすぐ側に「平重衡とらわれの松を跡として石碑がたっています。

頼政薬師寺

寺号を浄福寺という。

御本尊は薬師如来、本堂は戸が閉まっていて入られませんでしたが、薬師如来はガラス越しで見えました。

須磨寺公園 昼食

須磨寺の横に位置し春は花見で賑わいます。水連がきれいに咲いていました。大きな鯉も出迎えてくれました。

昼食後、須磨寺参拝の予習として高山さんから自作の紙芝居で分かりやすく説明して頂きました。

(一ノ谷の合戦 熊谷直実と平敦盛の一騎打ちと結末、青葉の笛、アツモリソウ、クマガイソウの語源)

須磨寺

須磨寺が有名になったのは源平一ノ谷の合戦の舞台になったことからです。

逃げ遅れた平家の一騎を熊谷直実が見つけ逃げるのは卑怯だと呼び止め一騎打ちとなった。

直実が首をとろうとしたした所まだ若い美少年だった、躊躇しながらも味方の手前打ち取り供養を約束した。

首実験で平敦盛と分かりまだ17才でした。残された笛を見て涙を見せない者はいなかった。

笛は「青葉の笛」と呼ばれ宝物館に展示されています。この笛を見たいと全国から多くの方が訪れ、又歌人も訪れ歌を詠んでいます(芭蕉、蕪村、正岡子規など) 境内には句碑・歌碑がたくさん残っています。

青葉の笛の歌は尋常小学校唱歌になっていました。

境内にはボタン1つずつ押すとメロディーが流れる石板があります。

松風村雨堂

平安時代在原行平がわび住まいし村長の「もしほ」と「こふじ」に会い二人を「松風」と名付け愛しました。

行平が都に帰り二人は行平を慕い無事を祈った庵の跡です。

訪れた史跡の句、歌

淡路島　かよふ千鳥の　鳴く声に　いくよ寝覚めぬ　須磨の関守（源兼昌）　百人一首　㊽

淡路島から海を渡って来る千鳥の鳴き声の為、須磨の関守（番人）は幾度目をさましたことだろう！

見渡せば　眺むれば見れば　須磨の秋　（芭蕉）

見渡せば、そして眺めても、又見ればやはり須磨は秋だなあ　（須磨の秋には趣がある）

読みさして　月が出るなり　須磨の巻（正岡子規）

源氏物語の「須磨の巻」を読んでいた所、ふと顔を上げると夜空に美しい月が出ているのをみつけた。

読みさしては中断の意味

たち別れ　いなばの山の　嶺におふる　まつとし聞かば　今帰りこむ（中納言行平）　百人一首⑯

貴女と別れ因幡の国に行きますが、因幡山の峰に生えている「松」のように待っていてくれると聞いたなら

私はすぐに帰って来ます。　※まつは松と待つの掛詞

飼い猫がいなくなった時この歌を紙に書いて玄関や食器に貼っておくと帰って来るというおまじないがあります。

綱引天満宮

高山さん熱弁

青葉の笛

源平の庭

【感想】

いい天気で気持ちの良い１日でした。

由緒ある神社を巡り歴史を学び歌碑もたくさんあり大変勉強になりました。

高山さんの予習のお陰で須磨寺をより意義深く参拝する事が出来ました。ありがとうございました。

青葉の笛は初めて知りネットで調べ聞きました。物悲しい曲でした。

現地でもっと説明すべきでしたが、不十分だった事をお詫びします。　記録をご参照して下さい。